

東北大学とアインシュタイン

- 「相対性理論」誕生百周年記念展示 -



世界物理年のロゴマーク
光の動きをあらわした時空図
「光円錐」

第1部：アインシュタイン全容

「光速度で光を追いかけたらどう見えるだろう」。16歳のアインシュタインが抱いた疑問は、それまでの自然観・科学観に革命をもたらす光と時空の理論「相対性理論」へと発展し、奇跡の年1905年をむかえて開花したのです。

(パネル展示)

- ・アインシュタイン年譜
- ・奇跡の年1905年
- ・アインシュタインの業績と意義
- ・相対性理論の原論文と翻訳
- ・アインシュタインの珠玉の言葉

第2部：東北大学とアインシュタイン

1922年11月、来日の途中にノーベル物理学賞受賞の知らせを受けたアインシュタインは、日本各地で熱狂的な歓迎を受けました。12月には杜の都仙台を訪れ、土井晩翠や東北帝国大学教授の本多光太郎らと交友を深めたのでした。

(パネル展示)

- ・土井晩翠宛書簡
- ・直筆サイン
- ・来仙時の写真と新聞記事 など



東北帝国大学の物理学教授陣と
(東北大学史料館提供)

会場：東北大学附属図書館 工学分館
(青葉山キャンパス内)

期間：2005年7月19日～8月11日